

アメリカ合衆国大統領 バラク・オバマ 殿

新たな形態の核実験強行に断固抗議し、核兵器のない世界のため誠実に努力することを強く要求する。

2013年8月22日

原水爆禁止神奈川県協議会

神奈川県横浜市中区野毛町 2-61 大澤屋ビル

米国エネルギー省国家核安全保障局(NNSA)は、今年4月～6月に新たな形態による核実験を実施(9回目)したことを公表した。

このような核実験強行に、原水爆禁止神奈川県協議会は強く抗議する。

これらの核実験がたとえ爆発を伴わないものであれ、それが今後とも核兵器を維持し、配備し、必要な場合には使用することを前提にしていることは明らかである。このようなことは、オバマ大統領の「核兵器のない世界」の追求とも矛盾し、世界の諸国民の願いにも、包括的核実験禁止条約(CTBT)の精神にも「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」との貴政府も賛成した2010年核不拡散条約再検討会議の合意にも反するものである。

米国政府は、核不拡散を呼びかけているが、他の国には核兵器の放棄を迫りながら、みずからは核実験を継続する姿勢は、到底、世界の世論を納得させるものではない。

核兵器のない世界の実現は、核兵器を禁止してこそ可能となる。いまや世界の圧倒的多数の国々が核兵器禁止条約の交渉を求めている。

核兵器は一発でも使われれば、それがアジアであれ、中東であれ、あるいはヨーロッパであれ、アメリカ大陸であれ、その影響ははかり知れない。被爆者が警告しているように、人類は核兵器と共存できない。核兵器廃絶はまさに、人類の生死をかけた死活的課題である。

私たちは、唯一の被爆国の国民として、貴国政府が、オバマ大統領が自ら表明した「核兵器のない世界を追求する」立場に立ち返り、いっさいの核実験、核開発を放棄し、核兵器全面禁止条約の実現のため誠実に努力することを強く要求する。

以上